

アンケート集計結果

1. お住まいはどちらですか。() 都/道/府/県
・東京 38人 ・神奈川 4人 ・千葉 1人 ・埼玉 2人 ・愛知1人
2. 年齢
(1) 10代 0人 (2) 20代 3人 (3) 30代 4人 (4) 40代 8人
(5) 50代 7人 (6) 60代 15人 (7) 70代 7人 (8) 80代以上 1人
3. 性別
(1) 男性 29人 (2) 女性 10人 回答なし 9人
4. 本シンポジウムはどこで知りましたか。
(1) 新聞：新聞名 1人
(2) 雑誌：雑誌名 0人
(3) ホームページ 2人
(4) 友人知人 29人
(5) チラシ 9人
(6) その他 9人
5. 職業をお答え下さい。
(1) 会社員 11人 (2) 公務員 0人 (3) 事業経営者 4人
(4) 弁護士 2人 (5) 主婦 3人 (6) 無職 9人
(7) 学生 3人 (大学生、大学院生)
(8) その他14人 (大学教員、大学研究員、歯科医、自由業、フリーランスライター、
テレビディレクター、雑誌ライター、自営業、年金生活者)
6. 日本の交通政策についてどのように考えますか。(複数回答可)
(1) 今後も自動車道の整備につとめるべき 1人
(2) 自動車道の整備は減らすべき 22人
(3) 公共交通を充実させるべき 30人
(4) 歩行者の利便性や自転車活用を推進すべき 32人
(5) その他 12人
 - ・ 新たな都市計画道路は見直し中止すべき
 - ・ 自動車道といっても無駄な高速道路と生活に必要な道路では違いがあると思います。
 - ・ 適正な予言予測 (B/C、環境、文化財等の評価、一般市民の十分なPublic Involvement)
 - ・ 必要な道路建設の基準を明確化すべき
 - ・ 車を減らし、他の交通手段の利用を増やす政策を積極的に実施すべき
 - ・ 街中に車のフリーゾーンを作る
 - ・ 道路上にバス専用レーンを作る

- ・ 都心のスローシティ化を図る
- ・ 整備の質、道路の質を考え道路コストを明確にするべき
- ・ 東京一極集中から、地方のコンパクトな街づくりへ
- ・ 他分野をあわせた総合的判断から考えていない
- ・ 総合交通政策を官民で策定検討が必要

7. 「真に必要な道路」は何かを考えるにあたって最も重要な要素は何だと思いますか。

- ・ 30年、50年先を見て安心して歩ける道路にしていくこと
- ・ 住宅地等の危険な道路は、車の一方通行又は進入禁止にして歩行者の安全を図ること
- ・ 環境、将来の人口分布と街作りの全体の将来を見据えた方向性
- ・ タテ割官庁では現状打破は出来ない、政治的判断が必要。
- ・ 政権交代
- ・ 関連法制度の抜本的改革
- ・ 国民的関心の強さ
- ・ 公害のような負の効果を適切に考えること
- ・ 小さな道をつなげていく。大きな道路は後回しでもよい。
- ・ 全ての人が平等に使用できる道路の建設（要するに、自動車中心社会からの脱却）
- ・ 一般道路や高速道路だけでなく、鉄道その他の競合交通手段との関係をも視野に入れて検討すること。
- ・ 道路以外の公共交通、歩行等総合的な交通政策の中で考える視点
- ・ 都市計画道路の全面的見直し
- ・ 環境→人の住んでいる、街が生き生きした地域になることを前提にした道路建設
- ・ 様々な交通手段をうまく使える事、特に人と環境に負担をかけない交通手段の利用が優先される交通政策に転換すること。
- ・ 従来のクルマ>人という優先順位を、人>公共車両、自転車>私的車両へと転換すること
- ・ 精度の高い需要予測、効果測定、事業測定
- ・ 誰のための道路建設かを
- ・ これからのポイントは人の生命、他の生命も尊重される道路に
- ・ 費用対効果、分析の議論の公開、一市民意見の反映
- ・ 市民生活の安全→健康、事故減、コミュニケーションの場、緑環境の保護を含めて
- ・ 道路行政の批判的再検討
- ・ 自動車の利用抑制、道路の新設の際のB/Cの議論だけでなく、日本という国家が必要とし、かつ維持していける道路の総ストック量について議論すべき
- ・ 受益の負担の一致（総費用と総使益）
- ・ 意志決定権限（大臣、知事、議会）
- ・ 土地利用規制との連携 経済的手法・・・需要自体の抑制
- ・ 高齢者も利用しやすい生活に資する道路
- ・ 住民の意見を聞いて広く議論をし、考えていくこと。寺西教授の話に共感した。
- ・ 予算の適正配分（特に現野党第一党の覚悟）
- ・ 政治家・官僚の既特権益の排除
- ・ 警察とのバランス
- ・ 道路は予算を含めて、地域主導にすべき。

- ・ 道路建設を「閣議決定」から「国会議決」にかえていくことが必要
- ・ 時間的価値の節約、燃焼費の節約、事故の節約の合計額の計算過程を公開させる。説明会で計算過程を公開議論させる。住民側に予算を与えて独自にさせる。国交省は十分な予算でコンサル、御用業者を雇えるが一般住民には予算がない。対等の立場にさせるためには住民側に調査費、特にB/C計算には多額の費用を要するため国交省と同額費用の枠を住民側に与えるべき
- ・ 歩行者、自転車利用者に優しい道路の建設、改造
- ・ 巨額な投資をするプロジェクトは、慎重に慎重を期すべき。道路だけ作って環境、町づくり全ての要素を考えて計画をすすめ、必要性がなくなったら撤退できる仕組みをとり入れるべき
- ・ 日本列島の経済活性化につながるかどうか。日本列島のどこもが一律的な経済、生活、産業等を描くのは不自然である。
- ・ 全ての人々が等しく、安全に移動できる権利を持てるための交通手段が大前提でなければならない。なにも車だけとは限らないはず。
- ・ 道路だけでなく、公共交通、自転車、徒歩も含めて使いやすく、人や自然に優しく、安い、移動しやすい交通体系を考えるべき
- ・ 現状の道路＝車という概念を止揚し、人と社会のための道路の性格のあり方をまず議論すべき
- ・ 自動車を減らしていくような都市交通体系に見合った道路の整備、公共交通機関、自転車を中心とした都市交通体系の構築
- ・ 国民生活に必要な費用の範囲で考えるべき。
- ・ すべての人々が等しく、安全に移動できる権利を持てるための交通手段が大前提でなければならない。何もクルマだけとは限らないはず。
- ・ 道路だけではなく、公共交通・自転車・徒歩も含めて、使いやすく、人や自然にやさしく、安い、移動しやすい交通体系を考えるべき
- ・ 現状は道路＝車です。この概念を止揚し、人と社会のための道路の進路、あり方を論議することと思います。
- ・ 自動車を減らしていくような都市交通体系に見合った道路の整備、公共交通機関、自転車を中心とした都市交通体系の構築

8. 最後に、本日のシンポジウムに対するご感想をご記入下さい。

- ・ 時間の関係で早口で大変でした。
- ・ 非常に勉強になった。
- ・ 参考になりました。寺西先生のお話は私達の心情と似ていて嬉しく思いました。今後も弁護士会でこのようなことをご続け下さい。ありがとうございました。
- ・ 寺西さんの話がまとまっていて大変勉強になった。
- ・ 弁護士がこういう活動していることは素晴らしいと思う。
- ・ とてもよい、シンポジウムでした。主催者に敬意を表します。
- ・ 道路問題に関する問題提起をきくことができ大変有益だった。
- ・ 非常に勉強になった、参加者からの熱気を感じた。
- ・ 今後もぜひ開催を！
- ・ 理想と現実のジレンマを感じました。政策を変えることが第一ですが、一般国民も道路の本当にあるべき姿について考える必要があると思います。

- ・ 政界と法曹界の方々が交じって議論が繰り広げられた機会となったこと有意義であったと思います。
- ・ こうした機会を設けていただきありがとうございました。自動車中心の「みちづくり」、公害や殺傷を助長するクルマ優先社会、活発交通の助長など、こうした問題を指摘された中島、寺西、西氏には勇気付けられました。今後とも、こうした機会を提供していただくとともに、クルマに乗る人が政治を支配している現状のクルマ最優先思想を問い直すような取り組みに期待しております。
- ・ 国交省の方が見えなかったのは、残念です。
- ・ とても素晴らしいシンポジウム、参考になりました。
- ・ 重要なポイントを各パネラーに話して貰い有意義でした。首都圏の圏央道、外環道、将来にマイナス要因が多すぎる。税金の無駄遣いになる道路建設はできる限りストップしてほしい。
- ・ 山本議員の意見の未熟なこと。小さな各論をそれも有償なものを表現したに過ぎない。天下り、土建業界の代表的な発言としか見られない。
- ・ とっても勉強になりました
- ・ 大変参考になりました。
- ・ 民主党の高速道路無料化についての考え方がよく分らなかった。もう少しその辺について時間を割いて欲しい
- ・ 秀れた運営であると思います
- ・ イギリスは1998年に道路政策の大転換が生じている（New Deal）日本はなぜそうならなかったのか？（公共投資基本計画？）－“高速化”はこれからも大事か？－地方地域の再生
- ・ 国交省がこなくて残念、他のメンバーはとてもよかった。
- ・ 費用便益分析について聞きたいと思っていました。寺西先生のわかりやすい「道」の説明に納得いたします。私は下北沢（世田谷区）に37年間すんでいます。歩いて楽しめる路地のまちに、26メートル幅の全く納得できない道路を作るといふ。どうやら連続立体交差事業なるものが存在し、その裏にうごめく、まちをこわし自分達だけの利益を考えている人々の「しわざ」のようです。
- ・ パネラーとの一般参加者の質疑応答がなかった。
- ・ 民主党か土木業界に色目を使っている。
- ・ Well Organizedのセミナーであった。行政（国交省）の参加を得られなかったのは残念。
- ・ 若い人の参加が少なかったように思います。
- ・ クルマ依存度について、都市部と地方における考え方の差を認めるべし、という現実的な解決を求めようという雰囲気は良かった。
- ・ 交通量予測（クルマであれ、鉄道であれ）は当たったタメシがないという説（寺西教授）もよかった。→B/Cでもない。
- ・ 今後も引き続き同様のシンポを一般も入れて開いてほしい。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 自転車道整備についての意見がほしかった。